

米倉教公の週間為替市場見通し

9/26 日週号

ドル/円予想レンジ 100.00 - 103.00 円

『日米金融会合後の要人発言に注目！』

■今週の市場動向：ドル/円は3週連続陰線引け

今週のドル/円の週足では、3週連続の陰線引けとなった。今年に入って3週以上陰線となったのは5回目となる。そのうち4週連続陰線は1回だけである。確率的には来週は陽線となる確率が高い。そのため、来週始値が非常に重要となる。週明けは日本が敬老の日で祝日であったが、全般ドル安が進んだ影響から売りが先行した。20日は、日本株の下落や米長期金利の低下から一時101.51円まで下落したが、日米金融イベント控えて下値も限定的だった。21日は、日銀会合でイールドカーブ・コントロールの導入を決定すると金融株を中心に日本株が急伸したことで、102円後半まで買い上げられた。しかし、黒田日銀総裁が記者会見で『長期国債買入れ額80兆円から増減あり得る』と述べると一転して売られる展開となった。FOMC利上げを見送り、FF金利の見通しを引き下げたことが伝わると、米長期金利が大幅低下したことを受け100.00円前半まで下落した。22日は、一時100.06円まで下げ幅が広がったが、財務省・金融庁・日銀の3者会合を開き、浅川財務官が円高けん制発言するとショートポジションの巻き戻しも加わり100.00円台後半まで戻した。23日は、一時101.24円まで戻した。

■来週の注目点：日米金融会合後の要人発言に注目！

日銀会合後の記者会見で、黒田日銀総裁がテーパリングとも取れる発言をしたことで円買いが強まった経緯もあり、週明けの講演には注目したい。FOMC後、28日に米下院金融サービス委員会で予定されているイエレン米FRB議長の議会証言に注目が集まる。また、数多く予定されているFRB高官講演のほか、年内利上げを探るために米国の主要経済指標に注目が集まる。米国大統領選を1ヵ月半後に控えてクリントン・トランプ両氏のTV討論会にも大きな注目が集まる。また、28日にアルジェリアの首都アルジェで開くOPECの非公式会合が注目される。この会合で、原油価格を安定することを目標に増産凍結で合意できるかが焦点となる。合意出来るとリスク選好材料となるが、合意できないとリスク回避の動きが強まる可能性も。

■テクニカル的な見解：動いた際は75日線の抵抗ラインに注目！

9月20日付のシカゴIMM投機筋の対米ドルの差し引き持ち高で、円は前週の+56,846から+58,686へと円の買い持ち高は前週から増加となった。パラボリック（パラメータ：0.08、0.3）では、21日から売転し継続している。MACD（パラメータ：12、26、9）では、デットクロスを維持しながら低下気味。ストキャスティクス・スロー（パラメータ：14、3、3、20、80）では、%Kと%Dは売られ過ぎ域から上昇の気配が出ている。75日移動平均線は21日に再び上値抵抗ラインとなった。今年に入ってから常に75日線が上値抵抗ラインとなっていることから、今後も75日線近辺での動きには注意が必要だ。75日線は102.81円に位置している。75日線が下降気味のなか、上抜け出来ずに推移していることから、円高圧力が根強く残っていることを示現している。今週は1ドル=100.00-103.00円を想定する。



★今週の気になる出来事

22日で水星逆行から順行に戻ったが、逆行が順行に戻る最終日の前後3日は、円高になりやすいと言われている。今回も21日に100円割れ寸前まで円高が進んだことで、水星逆行期のアノマリーが正当化された。何故なのかと聞かれても、答えられないのがアノマリーである。今年はまだもう1回水星が逆行する。12月19日～1月8日である。12月のFOMCは13-14日で水星逆行前、そして日銀金融政策決定会合は19-20日と逆行期に当たる。今回の8月30日～9月22日の間も荒れ相場だったが次回も荒れそう。

商号：株式会社フジトミ

金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第 1614 号

商品先物取引業者：農林水産省指令 22 総合第 1351 号,経済産業省平成 22・12・22 商第 6 号

加入協会：日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会、

■くりっく 365 の売買手数料は 1 枚当たり最大でインターネットスタンダードコースが片道 0 円 (税込)、インターネットプレミアムコースが片道 648 円 (税込)、コンサルタント取引 (対面取引) コース及びコンサルタント取引 (対面取引) オンライン併用コースが片道 1,080 円 (税込) です。

■くりっく 365 における証拠金の額は、株式会社東京金融取引所が定める為替証拠金基準額で、原則週次で見直されます。その額は通貨ペアによって異なり、個人のお客様の場合最大で約 25 倍のお取引が可能です。

【くりっく 365－為替証拠金基準額の算出方法】

金融先物取引所が定める為替証拠金基準額は以下の計算式に基づき、算出致します。

計算式：為替証拠金基準額＝取引単位 (元本金額) ×4%× (5 取引日の為替清算価格平均値)

■「くりっく 365」には、以下のリスクがあります。

【価格変動リスク】

くりっく 365 は、取引する通貨の価格の変動に伴い差損が生じる場合があります、元本や収益が保証されるものではありません。建玉を維持するために追加で証拠金を差し入れる必要が生ずる場合があります。また、差入証拠金以上の損失が生ずる場合があります。

【レバレッジリスク】

くりっく 365 は、取引の額が預託された証拠金に比して大きくなるため、価格変動リスクその他のリスクがその比率に応じて増幅されます。レバレッジにより、その取引について必要となる証拠金の最大 25 倍までのお取引を行うことができます。

【信用リスク】

当社は、東京金融取引所を相手方とした「清算制度」に参加しており、お客様の証拠金は、全額取引所が区分管理しているため、原則として全て保全されています。しかし、当社の信用状況の変化等により支払いが滞ったり、破綻した場合には、返還手続きが完了するまでの間に時間がかかったり、その他不測の損失を被る可能性があります。

【システム障害リスク】

当社及び東京金融取引所のシステム、又はお客様、インターネット業者、東京金融取引所の間を結ぶ通信回線等に障害が発生した場合には、相場情報等の配信、発注・執行等が遅延したり、不可能になることがあり、その結果、不測の損失が発生する可能性があります。

【税制・法律等の変更リスク】

税制・法律又はその解釈等が将来変更され、実質的に不利益な影響を受ける可能性があります。

【金利変動リスク】

取引対象である通貨の金利が変動すること等により、保有するポジションのスワップポイントの受取額が減少、又は支払額が増加する可能性があります。ポジションを構成する2国間の金利水準が逆転した場合等には、それまでスワップポイントを受け取っていたポジションで支払いが発生する可能性もあります。また、一部の通貨においては、外国為替市場における当該通貨の需給関係等の影響を受けて、金利変動によらずにスワップポイントの増減や支払いの逆転が生じたり、場合によっては、金利の高い方の通貨の買いポジションでスワップポイントの支払いが生じる可能性があります。

【流動性リスク】

くりっく 365 で提示する為替レートには価格差（スプレッド）があります。くりっく 365 では、マーケットメイカーが買呼値及び売呼値を提示し、それに対してお客様が注文を発注して取引が成立する方式を取っています。状況（天変地異、戦争、政変あるいは為替相場の激変等）によって、マーケットメイカーによる買呼値や売呼値の安定的、連続的な提示が不可能または困難となることがあり、その結果、想定する価格で取引ができないなど、お客様にとって不測の損失が生じる可能性があります。また、一部の通貨において母国市場等の休業の場合には臨時に休場することがあります。更に、当該国の為替政策・規制による他通貨との交換停止や外国為替市場の閉鎖の措置がなされるなどの特殊な状況が生じた場合には、特定の通貨ペアの取引が不能となる可能性もあります。なお、平常時においても流動性の低い通貨の取引を行う場合には、希望する価格での取引ができないなどの不利益を被る可能性があります。

【コンバージョンリスク】

クロスカレンシー取引においては、決済が当該通貨ではなく円貨でなされることから、決済時に当該通貨の為替リスクの他に円との為替リスクがあります。

【ロスカットのリスク】

相場の変動により、有効比率が当社の定める基準以下となったことを当社が確認した場合、お客様の意思に関わらず、当社はおお客様の全ての未約定注文の取消及び全ての建玉の決済注文（ロスカット注文）の発注を行います。

ロスカットの場合でも、相場の急激な変動により損失の額が差し入れた証拠金の額を上回る可能性があります。

【情報リスク】

当社からご提供させていただく情報は、くりっく 365 の取引の参考としていただく資料です。その記載情報は、信頼性、正確性、完全性において保証されるものではありません。また、情報内容も予告なしに変更することもあります。

【その他】

取引所為替証拠金取引の売買は、クーリング・オフの対象とはなりません。取引所為替証拠金取引に関しましては、金融商品取引法第37条の6の規定の適用対象とはなりませんので、ご注意ください。

※くりっく 365 は、株式会社東京金融取引所の登録商標です。